

報 会

ち か ら

静岡市相撲連盟

会 長 中村修二

事務局 村越浩二

令和4年3月

静岡相撲部OBちから会

昭和30年ちから会創立

昭和39年 11月 初刊

会 長 細倉涼太

☆「ちから」アーカイブス

企画吉永俊彦・渡辺 実・文岩崎安次

その4 少年選手への道筋④

少年選手権大会第二回目を迎える昭和五十四年は「国際児童年」であった。「すべての児童は、愛とまことによって結ばれ国民として、人類の平和と文化に貢献するようにみちびかれる」児童憲章

ロータリークラブ・ライオンズクラブ・ソロプチミスト等の各団体が児童少年の育成のために、それぞれの目的、それぞれの主旨でイベントを企画された。

そんな中で、静岡青葉ライオンズクラブが県少年選手権大会を応援したいという話が持ちより、同クラブと滝川会長の直接会談で共催団体として参画することが決定した。第二回大会では参加賞としてスポーツタオルが全選手に配られた。ところがある支部から応援の子供たちに渡したので売ってくれという無茶ぶりの話が出たがこれはダメなことであった。同クラブからは十数名の役員が来場し、会場入口への立看板も用意してくれた。役員のみならず、この大会の良さを認識し、このあと優勝旗を寄贈してくれることとなった。

その伝達式が静岡中島グランドホテルで行われた同クラブの月例会への招待があり、滝川会長の依頼により渡辺実・岩崎安次が参加、旗の贈呈その後のレセプションにも同席させてもらった。そのあと第三回大会の開催式で優勝旗贈呈式が行われた。毎年静岡市で開催するため、申込みも先も渡辺宅となっていて、トーナメントの組み合わせも渡辺・吉永・加藤といったメンバーで行われた。この頃から各支部も選手育成に力を注ぐようになり、いわゆる即席の選手は少なくなり本格的な選手が増えてきた。成績も当初有力だった大仁・由比から静岡・焼津が台頭し相互に団体優勝を収めることが多くなった。

個人優勝者を見ると20回大会までの間に山野文裕・山中与志久・田中一也・福里紳太郎・桜井武仁・宮谷道太郎・渡辺琢磨らの名前が残る。選手が大勢になると、支部三チームの枠をこえて出場させたいと希望が出るようになり、近隣で枠のあいている支部から出るという緊急措置をとったこともあった。

☆「ちから」アーカイブス

企画吉永俊彦・渡辺 実・文岩崎安次

その4 少年選手への道筋⑤

昭和五十七年駿府会館の建て替工事に伴う解体工事のさ中に今川館の遺構が発掘され、大規模な調査が行われることとなった。歴史的発見ということで相撲場も現在の城北スポーツ広場への移転も余儀なくされ、体育館の建て替え計画も中止されることとなった。屋根も柱も解体されそのまま移転、土俵の土盛り俵入れにはわれわれも立ち会ったが、完成後はスポーツ広場の管理人の監督下に入り、土俵への水撒きも管理事務所の職員が行ってくれるようになった。ただ、連盟の方にも水撒きの達人がいて大会日の水撒きはその人の担当、指揮のもとで行われた。各地で少年への指導が強まり、大会の回を追うごとに熱戦が展開されるようになり、昭和五十九年六十年には静岡すもう教室が初の連覇を成しつづく六十年六十二年には焼津が連覇している。この昭和五十九年は海野好孝・鈴木孝易・萩原信宏のメンバーである。五十七年五十八年五十九年はつづけて第三位、六十年の準優勝は第二位でワンツーフィニッシュ、メンバーは四ツ間純一郎・鈴木祥一・鍋田明成である。六十一年にも二位となり最盛期を呈していた。六十年は春の県スポーツ祭もAB優勝、小学生大会の団体を制し、この年初めて県連の優秀選手特別表彰が森下学区の体育祭の折に行われた。この頃だったと思うが県体協の会合のあと、このなりゆきで会長の佐野嘉吉さん・副会長の竹田昌千さんと一緒に飲酒する機会に恵まれた。話がこの少年大会のことに及び「いい大会をはじめてくれた。少年相撲の活性化として画期的なものだな」とおほめにあずかった。

また一度、東京大学公開講座を聴講に出掛けたことがあり、全五講演「スポーツ」のうち仕事の関係で「子供とスポーツ」の項目を受聴。少年スポーツは諸刃の剣「子供の我意識」「指導者の資質・鍛えすぎ・自慢気・保護者の練習への弊害」などの欠点などが指摘された。浅学非才の身には目からうろこのことであった。

大それてくぐる赤門若葉風、 つづく

令和3年度公益財団法人静岡市体育協会

優秀指導者章 山中与志久

令和4年3月8日に静岡市体育協会の表彰式が行われ、静岡市相撲連盟からは山中与志久さんが優秀指導者章を受賞されました。今後の活躍にも期待します。